



成人
SEIJIN

特集
再々、
能登半島へ

このたび、旭日につながる有志8名（うち2名が初参加）が9月12日から9月14日にかけて、能登半島災害救援ひのきしんに出動させていただきました。

今回の災害救援ひのきしんは、
令和6年9月の役員先生方を含めた有志隊、
同年11月の青年会旭日分会の有志隊、
令和7年3月の青年会旭日分会の有志隊、
に引き続く第4次隊としての出動となりました。

教内の災害救援活動の拠点である「ひのきしんセンター」が所在する珠洲市は、訪問のたびに倒壊家屋が減り、道路も修復され、一見すると震災の爪痕が見えづらくなってきた印象を受けます。

しかし、今回の行程では帰途につく前に、昨年9月の豪雨で最も被害が大きかった大谷地区を視察し、復興への道のりはまだまだ続くことを改めて痛感いたしました。

今後も青年会が窓口となって、支援活動を継続していきますので、変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。

今号も参加者の感想レポを掲載しております。
ぜひご一読ください。



「被災地」という場所

松浦 治（天産分会）

今回、能登での被災地支援に行かせてもらったのは5回目になります。そのうち3回は旭日大教会の災害地支援での参加でした。まだ残暑が厳しい中、多くの方が汗を流しながら被災地のために動いておられ、またひのきしん者同士の交流もあり、本当に学びの多い時間になりました。

思えば私は、生まれた時に阪神淡路大震災を経験しました。ただ当時は赤ん坊でしたし、あとから学校や親戚から話を聞いた程度で、どこか他人事のように感じていました。高校生の時に東日本大震災が起きた時もそうでした。寮生活をしていた私は揺れを感じたり、家族と連絡が取れずに不安がる友人を見たりしましたが、寮にはテレビもラジオもなく、新聞も読まない生活。情報が全然入ってこなくて、その時も現実感がなく「遠くの出来事」と思っていました。数年後、卒業してから映像を見て初めて大変なことが起きていたと知り、何も知らずに過ごしていた自分が恥ずかしくなりました。

そして今回。私も住んでいた石川県で、能登を中心に大きな地震が起きました。遊びに連れて行ってもらったこともある思い出の場所です。これはどうしても行かせてもらいたい、恩返しをさせてもらいたい、そう強く思って足を運びました。

最初に取り組んだのは、半壊したお宅兼お店の片付けでした。味噌屋さんだったそうで、大きな釜や人より大きな味噌樽、家財道具を運び出しました。危険もあってヘルメットをかぶっての作業でしたが、他の団体の方とも力を合わせながら進めることができました。被災された方からは「家の解体には補助金が出ても、中の片付けは自分たちでしないといけない。高齢者ばかりの地域では本当に大変なんだ」という話を伺い、胸が痛みましたし、改めて支援の必要性を感じました。

午後からは「キリコ祭り」にも参加させていただきました。旭日隊は焼きそばの屋台を担当。地元の方々が巨大な切子灯籠を担いで太鼓や掛け声と共に練り歩く姿は圧巻でした。普段は過疎化が進んでいる地域ですが、この日ばかりは子や孫世代も帰ってきて、老若男女たくさんの方が笑顔で楽しんでいました。まさに地域の絆を感じる時間でした。特に心に残ったのは、祭りの行列で帰り道が塞がれてしまった時のことです。どうしようかと困っていたら、ひのきしんセンターの先生が声をかけてくださり、行列の方々が道を開けてくださいました。そのとき「ひのきしんの皆さんありがとう！」と、地元の人たちが口々に声をかけてくれたんです。



おじいさんも、小さな子どもも、みんな笑顔で手を振ってくれており、その瞬間、この土地に「ひのきしん」がしっかり根付いていることを実感しました。これは、先輩方が積み重ねてこられた誠の行いがあったからこそだと胸が熱くなりました。おふでさに、

かみなりもぢしんをふかせ水つきも

これわ月日のざねんりいふく（8号 58）

とあります。この被災地に関して、私もかつてそうだって様に他人事ではなく、実際に行ってひのきしんをさせていただく事は、この震災を通して神様がどういうメッセージを下さっているのか考えるために必要な事なのかなと思います。

能登にはまだまだ支援を必要としている場所がたくさんあります。日程の調整は簡単ではありませんが、これからも一人でも多くの方と共に現地へ足を運び、先人の先生方が残してくださった「真実・誠」の心を受け継いでいきたいと思います。

本当に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

「繋がりがあれば大丈夫」

大野 光芳（磯里分教会長）

今回、初めて能登半島災害支援ひのきしん隊に参加させていただきました。今回の参加については年齢を問わないとのことでしたので若い青年さんと一緒に63歳の私が何ができるかという思いはありましたが、機会があれば一度ひのきしん隊に参加したいと思っていましたので、仕事の休みの都合も付きましたので参加させていただきました。ひのきしん隊を終え帰宅して、参加されてどうでしたとよく聞かれました。私自身が一番思ったことは、「たいへん楽しかった。」ということです。もちろん旅行気分に参加したわけではありません。災害が起こってから1年9か月たった現状と少しでもお役に立てればとの思いがありました。夜中に大教会を出発して、現地に到着して近くのコンビニの駐車場で仮眠をとりその後打ち合わせをし、ひのきしんの現場に行かせてもらいました。朝ご飯は、おにぎりでした。お昼は、カップラーメン、夜はお弁当、宿泊場所はひのきしんセンターを立ち上げられた教会で借りしました8畳の間で8人が雑魚寝でした。けれど、ひのきしんをさせていただいて、喜んでいただいている方の笑顔や、現地で復興で頑張っておられる方と接していると反対に勇気をいただけるそんな気持ちになりました。

特に1日目の夜に現地でお祭りに参加させていただき、焼きそばを出店させていただきました。

現地に行くまでは、重なる災害があり、町自身が沈んでいるのかと思っていましたが、お祭りには、小さい子供さんを始め、若い多くの人が見られました。お祭りで実家に戻れている方も多かったと思います。この先5年、10年と復興には時間がかかると思います。けれど、この人たちのつながりがあれば必ず復興はできると感じました。我々が参加できるひのきしんは短い時間です。たくさんの事はできません。けれど、ひのきしんを通して人と人とのつながりを大切に、そしてそれを続けることが大きな力になっていくと思います。このひのきしん隊の参加の機会を与えていただきました青年会のスタッフの方に心より感謝いたします。



松浦 治（天産分会）



大野 光芳（磯里分教会長）



天理教青年会総会



*Always connected
with Oyasama*

あの人のために
おちばへ。

たすかってほしい人がある。
ずっと元気でいてほしい人がある。
幸せを願っている人がある。

忙しい毎日の中でも、その人のことが頭から離れない。
その人のたすかりを願い、僕らはおちばに帰る。
そうだ。おちばは「たすかる」ところだ。
いつでも教祖がそばにいて、僕たちを導いてくださる。
そして僕たちをおちばでお待ちくださっている。
さあ、いこう。

心を澄ます毎日の、その先に。

10.25^土

式典 午後1時 本部中庭



心を澄ます毎日を。
ーほこりを減らし、誠を増やすー

まずは総会
特設ページへ
アクセス





旭日おぢば帰り団参 ～団参の夕べ～

10月25日

青年会総会

11:45	大教会集合
12:00	出発
13:00	式典開始
14:00	式典終了
14:45	お願いづとめ @ 大教会神殿
15:15	終了予定

旭日おぢば帰り団参
16:00 準備開始
17:30 タづとめ
団参の夕べ開始
カラオケ大会
20:00 終了予定
翌26日 秋季大祭参拝
祭典終了後
旭日おぢば帰り団参



誰かのために
おちばへ帰る
おたすけ願ひ

青年会総会特設ページ



能登半島災害救援ひのきしん隊
出動協力金のご報告（3／16～9／10）

□ご寄付

計 73,000 円（計 5 件）

□アルミ缶およびプルタブ回収

計 86,140 円

□チャリティライブ@近鉄奈良駅

計 18,871 円

□合計

178,011 円

この度は、能登半島災害救援ひのきしん隊の出動に際し、さまざまな面でお心添えを賜り、誠にありがとうございました。

残金 34,430 円については、次回の出動資金に繰り越させていただきます。引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

